

2026年3月期 第1四半期決算 説明資料

2025年8月7日
日本貨物鉄道株式会社

1. 2026年3月期 第1四半期決算

2. 2026年3月期 業績見通し

1. 2026年3月期 第1四半期決算

連結経営成績

(単位：億円、単位未満切捨て)

	2025年3月期 第1四半期実績	2026年3月期 第1四半期実績	対前年同期	
			増減	%
営業収益	476	503	+27	+5.7
営業費用	477	489	+11	+2.4
営業利益	-1	14	+15	—
経常利益	-3	11	+15	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	-4	6	+11	—

単体経営成績

営業収益	382	403	+21	+5.5
営業費用	390	396	+5	+1.5
営業利益	-8	6	+15	—
経常利益	-10	4	+15	—
四半期純利益	-10	1	+11	—

- 連結営業収益は、運輸収入ではコンテナ輸送量の増加により、前年度を上回り増収。
- 連結営業費用は、修繕費や線路使用料の増加等があり、前年度を上回った。
- 連結営業利益は、連結営業収益の運輸収入が伸びたため営業利益を確保し黒字転換。経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益も、黒字転換。

1. 2026年3月期 第1四半期決算

セグメント別状況

(単位：億円、単位未満切捨て)

		2025年3月期 第1四半期実績	2026年3月期 第1四半期実績	対前年同期	
				増減	%
鉄道ロジスティクス事業	営業収益	430	447	+17	+4.0
	営業利益	-27	-21	+6	-
不動産事業	営業収益	48	58	+9	+20.5
	営業利益	24	34	+10	+41.2
その他	営業収益	12	11	-0	-1.6
	営業利益	0	0	-0	-36.1

(単体) 事業別状況

鉄 道 事 業	営業収益	342	353	+11	+3.4
	営業費用	375	381	+6	+1.7
	営業利益	-32	-27	+5	-
関 連 事 業	営業収益	40	49	+9	+23.5
	営業費用	15	15	-0	-2.0
	営業利益	24	34	+9	+40.0

- 鉄道ロジスティクス事業では、エコ関連物資の安定的な発送に加え、農産品・青果物の取扱いが政府備蓄米の流通拡大に伴い輸送量が増加した。これにより運輸収入が増加し、車両修繕費や線路使用料等の費用増加分を吸収した結果、増収増益。
- 不動産事業は前年度末に完成したマンションの販売や新規貸付案件の平年度化、社宅跡地の土地持分譲渡等が影響し増収増益。

1. 2026年3月期 第1四半期決算

連結財政状態

(単位：億円、単位未満切捨て)

	2025年3月期 実績	2026年3月期 第1四半期実績	対前期末 増減	備考
資 産	4,568	4,668	+100	流動資産 911億円 (対前期末 +105億円) 固定資産 3,757億円 (対前期末 -5億円)
負 債	3,540	3,620	+79	
純 資 産	1,027	1,048	+20	
自己資本比率	21.2%	21.1%	—	

単体財政状態

資 産	4,173	4,283	+109	流動資産 706億円 (対前期末 +109億円) ・現金及び預金の増 +125億円 固定資産 3,576億円 (対前期末 -0億円) ・減価償却の進捗による減
負 債	3,502	3,609	+106	当期末長期債務2,412億円 (対前期末 +164億円) ・社債 540億円 (対前期末 +100億円) ・有利子借入 850億円 (対前期末 -7億円) ・無利子借入 1,021億円 (対前期末 +71億円)
純 資 産	670	673	+2	

- 2025年6月にグリーンボンドを含む社債を発行し100億円調達。
- 震災・大雨・噴火に対応したコミットメントライン（貸付限度額150億円）を継続。当期まで利用なし。

1. 2026年3月期 第1四半期決算

連結キャッシュ・フローの状況

(単位：億円、単位未満切捨て)

	2025年3月期 第1四半期累計	2026年3月期 第1四半期累計	対前年同期	
			増減	%
営業活動によるキャッシュ・フロー	11	70	+59	+534.9
投資活動によるキャッシュ・フロー	-85	-120	-35	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	138	169	+30	+22.3
現金及び現金同等物の増減額	64	120	+55	+84.9
現金及び現金同等物の期末残高	276	528	+252	+91.4

単体キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フロー	14	67	+52	+354.2
投資活動によるキャッシュ・フロー	-84	-114	-30	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	120	173	+52	+43.8
現金及び現金同等物の増減額	50	125	+74	+147.2
現金及び現金同等物の期末残高	148	409	+261	+176.5

- 連結の営業活動によるキャッシュ・フローは、運輸収入の増収等により当期純利益が増加したため流入額が増加。
- 投資活動によるキャッシュ・フローは、機関車の新製等により流出額が増加。
- 財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入の実行により流入額が増加。
- 現金及び現金同等物は期首から120億円増加し、期末残高は528億円。

1. 2026年3月期 第1四半期決算

品目別輸送実績表

(単位：千トン、単位未満切捨て)

	2025年3月期 第1四半期累計	2026年3月期 第1四半期累計	対前年同期	
			増減	%
輸送量	6,278	6,423	+145	+2.3
コンテナ	4,506	4,750	+244	+5.4
農産品・青果物	292	319	+26	+9.0
化学工業品	393	387	-6	-1.6
化学薬品	270	268	-2	-1.0
食料工業品	798	776	-22	-2.8
紙・パルプ	505	503	-1	-0.4
他工業品	287	301	+13	+4.7
積合せ貨物	808	816	+7	+1.0
自動車部品	177	190	+12	+7.3
家電・情報機器	97	90	-6	-6.5
エコ関連物資	90	250	+159	+175.5
その他	783	847	+63	+8.1
車扱	1,771	1,672	-99	-5.6
石油	1,228	1,214	-14	-1.2
セメント・石灰石	274	236	-38	-14.1
車両	171	164	-7	-4.1
その他	96	56	-39	-40.8

- コンテナは、エコ関連物資が、中央新幹線建設工事に伴う発生土の運搬により前年を上回ったほか、農産品・青果物は、政府備蓄米の流通拡大により東北・新潟地区において増送となった。また、自動車部品は、一部顧客における増送により前年を上回り、コンテナ全体で前年を上回った。車扱は、セメントが、顧客工場の定期修繕計画の変更により出荷量が減少し減送となったほか、亜鉛が、顧客の輸送終了の影響を受け、車扱は前年を下回った。コンテナ・車扱の合計では前年を上回った。

1. 2026年3月期 第1四半期決算

2. 2026年3月期 業績見通し

2. 2026年3月期 業績見通し

連 結

(単位：億円、単位未満切捨て)

	2025年3月期 実績	2026年3月期 見通し	対前年同期		2026年3月期 前回見通し (2025.5.13)
			増減	%	
営 業 収 益	2,007	2,143	+135	+6.7	2,143
営 業 利 益	27	88	+60	+225.1	88
経 常 利 益	14	74	+59	+408.2	74
親会社株主に帰属する 当期純利益	67	43	-24	-36.4	43

単 体

営 業 収 益	1,622	1,753	+130	+8.0	1,753
営 業 利 益	6	70	+63	+947.9	70
経 常 利 益	-8	55	+63	—	55
当 期 純 利 益	53	32	-21	-39.6	32

- 既存の輸送力を最大限に活用し、物流の2024年問題やカーボンニュートラルへの対応といった社会的課題に応えることで、対前年での増収を見込む。
- 物価上昇により個人消費が依然として力強さを欠く中ではあるものの、社会課題の解決に貢献するため、グループ社員の力を結集して総合物流事業を推進し、安全管理の徹底、災害発生時にも迅速に対応できる体制を確立し、お客様のニーズに応えていく。
- 通期業績予想は2025年5月13日の前回予想から変更なし。

〔当社グループの事業系統図〕

